

科目区分	専門教育科目	科目名	臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）		科目コード	21S540	担当者	古賀 克彦			
対象学生	生活創造学科 栄養士コース 2年生		学期区分	前期	単位数	2	担当形態	単独			
			授業形態	講義							
科目			施行規則に定める科目区分又は事項等			卒業要件	選択				
						免許・資格要件	栄養士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
学生が各種疾病と食事療法との関係を理解することを目的とする。						1. 「 良心 」 誠実な人柄と 人間力	2. 「 創造 」 高度な知性と 創造力	3. 「 実践 」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 思考力・判断力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	各種疾患の定義、病因、症状、診断方法、治療法について理解する										
2.	各種疾患の栄養上の問題点と食事療法の関係について理解する										
3.											
4.								◎		○	
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						定期試験（100%）					
講義形式											
課題等への対応						授業外学修時間					
課題の提出はないが、オフィスアワー等の時間に質問への対応を行う。定期試験の結果については、追再試験期間中に対応する。						30～60分程度					
回数	授業計画					学習課題（予習・復習）					
第1回	循環器 動脈硬化症（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					循環器の解剖生理と、教科書を用い動脈硬化症について予め予習を行っておく。					
第2回	循環器 高血圧症（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い高血圧症について予め予習を行っておく。					
第3回	循環器 虚血性心疾患（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い虚血性心疾患について予め予習を行っておく。					
第4回	循環器 脳卒中（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い脳卒中について予め予習を行っておく。					
第5回	循環器 メタボリックシンドローム（定義、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用いメタボリックシンドロームについて予め予習を行っておく。					
第6回	呼吸器 呼吸器疾患（COPD含む）（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					呼吸器の解剖生理と、教科書を用い呼吸器疾患について予習を行っておく。					
第7回	腎臓 糸球体腎炎（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					腎臓の解剖生理と、教科書を用いCKD（慢性糸球体腎炎）について予習を行っておく。					
第8回	腎臓 ネフローゼ（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用いネフローゼ症候群について予め予習を行っておく。					
第9回	腎臓 腎不全（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					教科書を用い腎不全について予め予習を行っておく。					
第10回	血液 貧血（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					血液の解剖生理についてと、貧血について予め予習を行っておく。					
第11回	免疫・アレルギー（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					免疫の仕組みについてと、自己免疫疾患及びアレルギーについて予め予習を行っておく。					
第12回	骨・関節および歯科 骨粗鬆症他（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					骨組織の解剖生理と、教科書を用い骨粗鬆症について予め予習を行っておく。					
第13回	外科 術前・術後の栄養管理（疾患の定義、分類、病因、症状、診断、治療法、食事療法）					外科・術後の栄養管理について予め予習を行っておく。					
第14回	臨床栄養学総論① 臨床栄養学の意義と目的 医療・福祉と臨床栄養					教科書の「臨床栄養学の意義と目的」と「医療・福祉と臨床栄養」の部分を読み、予習を行っておく					
第15回	臨床栄養学総論② 食物と薬剤の相互作用					教科書の「食物と薬剤の相互作用」の部分を読み予習を行っておく。					
試験	定期試験を実施する										
教科書	エッセンシャル臨床栄養学 佐藤和人著 医歯薬出版株式会社				受講生への メッセージ	栄養士として働いていくうえで、治療食を介して患者さんの治療や、喫食者の健康増進に係わる事が出来る事は大きなやりがいとなります。難しい内容も多いですが、社会に出ると必ず必要となります。頑張ってください。					
参考書等	なし										